

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を踏まえて、事業所開設時に職員間で話し合い決めました。玄関、相談室、地域交流スペースに掲示して皆で意識できるようにしています。	開所当初に作り上げた理念は、職員が話し合い決めた、思いが込められている理念である。事業所内各所に掲示し、いつでも確認できるようになされ日々の支援の中で活かし、振り返りの機会にもなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は地域交流スペースを地域に開放していましたが、現在は交流を控えています(令和5年は1回のみ使用)。回覧板を配布していただき地域の情報を得ています。	コロナ禍中も収束傾向にあった時に一度地域交流スペースを、地域の話合いの場として開放された経緯がある。事業所としても地域に役立ちたい、地域と共に成長したいとの思いは強く、まだまだコロナ禍継続中と思うようにはすすめられない現状である。近隣を散歩中に地域の方に挨拶するなど、現状で、できる範囲で地域に溶け込もうと努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所時は近隣の方から介護や入居に関する問い合わせがあり、助言等を行っていました。問い合わせがあった際には説明や案内をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、書面開催をしています。事業所の取り組みやご意見を共有し、面会再開などに取り組んでいます。	コロナ禍のため書面開催となっている。包括職員、介護支援員、自治会長、家族全員がメンバーで、2ヶ月に一度、取り組み、報告、意見をもらう用紙を郵送し、毎回意見はもらっている。出された意見は職員間で検討し、支援に活かすようにしている。取り組みや改善点は次回の報告書に記載しメンバー全員に送られ事業所の現状を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センター担当者から参加していただいていた。現在は書面開催で連絡をしています。	運営推進会議には包括職員、市から派遣されている介護支援員がメンバーとなっており、事業所の現状、取り組みは把握されている。意見ももらい相談できる体制は整っている。区の担当職員とは必要に応じて連絡し協力は得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会は2か月に1回で定期開催をしています。社内研修は年2回開催し、意見交換をしながら身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	2ヶ月ごとに開催される委員会での決まり事項は、月1回のミーティング時に伝達や回覧され職員に伝えられている。年2回法人主催のタブレット研修を受け、報告書を提出し職員全員が理解し日々の支援に取り組んでいる。利用者の安全確保のため玄関に施錠はされているが、事業所内では行動制限はせず職員が目配り、気配りで自由に行動できるようになっている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束禁止委員会と合わせて、定期開催をしています。社内研修は年2回開催し、意見交換をしながら虐待防止に取り組んでいます。	委員会、研修ともに身体拘束と共に行われ、職員全員理解している。何気ない言葉かけが虐待にあたることを念頭に入れ職員間で注意しあい支援にあたっている。管理者は日頃から職員に声掛けや時には現場も担当し、ストレスに配慮するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方はなく、研修を開催していませんでした。今後に備えて、学ぶ機会を持てるようにしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用パンフレット、重要事項説明書、契約書、個人情報使用同意書、入居時確認事項説明書を説明し、理解していただけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の書面開催において意見を聴取し、オンライン面会の設定や対面での面会など再開に向けて取り組みました。	家族全員運営推進会議のメンバーとなっており、書面開催時に毎回意見を聞く機会はある。また受診時や面会時にも聴きとるように努め、事業所からも電話連絡する機会を多くつくり意見を聴くようにしている。出された意見は、時間を置かず職員間で検討し運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングを毎月開催しています。職員とのコミュニケーションを大切にしながら、相談や意見を日常的に聞きながら、業務の見直しなどに取り組んでいます。	月1回のミーティング時、毎日の朝礼時、職員が気が付いた時と、いつでも意見は出され、ミーティング時を中心に検討されているが、早急な対応が必要な場合は、現場にいる職員で検討し業務の見直し等に繋げ取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社組織として職員のスキルアップ研修、資格取得など支援体制があります。個々の努力実績や勤務状況などを評価し、就業環境の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的に行っております。全事業所を対象にして、リモート研修に取り組んでいます。資格を有していない職員は「認知症介護基礎研修」終了のサポートを行いました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内にツクイのグループホームが5事業所あり、連絡相談は日常的にしています。外部研修を通して他法人と意見交換を行いました。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時には介護支援専門員から事前に情報を得ておき、安心してもらえるように努めています。施設見学に来ていただく方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時は生活歴や現病歴を伺いながら家族の思いや不安を受け止め、事業所に対する要望等を述べやすい雰囲気作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に本人や家族のニーズを把握できるように、アセスメント表を用いて課題分析を行っています。在宅復帰や他サービス利用の必要性があれば関係機関と連絡調整を行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各自の生活能力や得意な事を見極め、家事や軽作業などを一緒に行い、お客様から学んだり、支えあう関係を築いています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員から毎月手紙をお渡しして、ホームでの様子を伝えることによって共に本人を支えていける関係に努めています。対面での面会は令和5年2月より再開しています。	受診同行する家族、母親である利用者の髪をカットしに訪問する家族、キーパーソン以外の家族の協力も多く、それぞれできる範囲でかけがえのない家族として利用者を支えている。事業所からは毎月写真と共に近況を手書きし、利用者を身近に感じてもらえるように、相互に協力し利用者を支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限があることで交流する機会が減少してきましたが、感染者数の減少に合わせて、面会の再開を行っております。	家族以外の友人、知人の面会は多く、馴染みの関係性が継続されている。家族の協力を得ながら墓参りや以前には馴染みの喫茶店で家族と共に過ごしたり、職員と共にドライブの途中で自宅近くを通るなど今までの生活を大切にされた支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	お客様同士の関係性の把握に努めており、 テーブル席に配慮したり、お客様同士で コミュニケーションがスムーズに行えるよう に必要に応じて職員が関わっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・ 家族の経過をフォローし、相談や支援に努 めている	退去された方から現在のご様子などお 手紙をいただきました。またお問い合わせ があればいつでも必要なサービスを提供 できるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の 把握に努めている。困難な場合は、本人本位 に検討している	初回面接時や日頃の何気ない会話や表情 から、個々の要望を把握できるよう努 めています。また毎月実施をしているユ ニットミーティングを通して情報の共有に 努めています。ご家族からも情報提供を いただいています。	初回面接時にフェイスシートを基に本人、 家族の思いや意向を詳細に聞き取り確 認している。また入居後の生活から見 えてくる表情や思いを汲み取り、目線 を合わせて、一人ひとりに寄り添って いる。新しい情報や気付きは日々の申 し送りノートに記録し全職員で共有し て支援している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経 過等の把握に努めている	ご本人からの聞き取りで不十分な場合 は、ご家族や親戚、ケアマネ等から情 報提供を行っていただいています。ツク イの調査票を用いながらご本人が望む 暮らしの把握に努めています。	一人ひとりの馴染みの生活が送れるよ うに、入居前に確認した生活歴や環 境、日頃の習慣や癖など暮らし方の情 報をを詳細に把握している。前任の ケアマネージャーや事業所からも情 報を提供してもらい、環境の変化の重 要性を受け入れ、入居後も自分らしく 暮らせるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	状態観察や変化に合わせて、心身の 状態や有する能力の把握に努めていま す。ユニットミーティングでは職員間 の情報と課題の共有はできています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	どんな入居生活を望まれていて、その望みを可能にするために出来ることは何かを常に意識しています。電話等で連絡を取り合い意見を参考に計画の見直しをしています。	本人、家族の意向を踏まえ、生活記録や全職員からの意見やユニットミーティングに出た意見を参考に計画作成担当者が作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、1年毎にプランを見直しているが状態に変化が見られた時はその都度プランを見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様をより深く理解するために、サービス計画書に連動したタブレット入力をしています。情報を共有しながら、カンファレンスや計画書の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医受診、買い物支援など対応しています。季節感を感じるようなドライブを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけ医を継続したり、地域の医療機関と連携しながら支援ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続や必要時は専門医への受診を支援しています。ご希望があれば協力歯科の訪問診療を受けられるようにしています。	本人、家族が希望するかかりつけ医を尊重しているが、往診医への移行を希望される方が多く、協力体制も整っている。週1回の訪問看護師から健康管理や体調不良時の連絡相談は安心してできる。また24時間オンコール対応も整備されている。薬剤師からの支援もあり、安心できる医療体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと委託契約を結んでいます。定期的な訪問が週2回あり、日常的に相談が来ています。24時間オンコール対応をしており、体調不良時は連絡相談はしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご本人、ご家族の同意を得て介護情報提供書を提出し、退院前には医療機関を訪問し、情報収集を行いスムーズに入居生活へ戻れるように連携を心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の看取り方針を掲げています。契約時に重度化、終末期に対する指針を説明しています。終末期に医師の診断があった時点で、家族の意向を確認し、看取りに係る同意書を交わすこととしています。令和5年6月に看取りケアを行いました。	入居契約時に「重度化対応、終末期ケア対応方針」について、事業所として説明し同意を得ている。本人、家族、医療、職員との協力体制を図りながら、対応や方針を決定し、利用者や家族の安心に繋がる協力体制を整えていく方針である。家族の思いを受け入れて、本人の状態に応じた病院や施設入所への推進支援も対応している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備しています。AEDは玄関ホールに配置しています。訪問看護より感染発生時対応の勉強会を開催していただいています。	急変時や事故発生時のマニュアル、症状別緊急時対応一覧が整備され、目のつく場所に置いてあり、対応方法や実践力を身につけている。AEDは玄関ホールに配置しており、全職員が使用方法を修得している。ユニット同士の緊急時の連携体制も整い利用者の安全を確保している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に年2回行っていきます。事業所内で避難訓練をしていますが、地域の方に参加していただくまでできていません。	年2回昼夜を想定した避難訓練を利用者と共に実施している。マニュアルの整備、避難場所、通報訓練を実施し避難出来る方法を全職員は修得している。非常食や備品、利用者情報も整備されており、ユニット同士、法人内の連携体制も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報マニュアルを整備し尊厳を支える個別的なケアを提供できるように努めています。排泄ケア時の言葉かけや対応に注意を払っています。記録は目に触れないように配慮しています。	個人情報及びプライバシー保護のマニュアルを作成し、利用者一人ひとりに合った言葉かけや日々の対応にもプライバシーを損ねないように心掛けている。日常のケアの中で不適切な対応が生じた時は、その場で注意し合い、全職員がその人らしい尊厳ある姿を大切に寄り添っている。日々の記録や個人情報の管理も責任ある取り扱いを行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表した際はご家族に協力を依頼しながら支援しています。自己決定が出来るような言葉かけを工夫して環境づくりに配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重し、本人の希望をお聞きしながら支援に努めています。居室で過ごしたい場合はその思いを尊重し支援しています。一人ひとりが孤立しないよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容サービスではシェービングや好みの髪型を個別にお聞きして対応しています。ご自分で着たい服が選べるように衣類をたくさん用意していただいている方もいます。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、下膳、テーブル拭き、手の消毒などできる力を活かして協力いただいています。メニュー内容をお伝えし季節感を感じていただいたり調味料は何を使うかなど会話に取り入れ楽しみにつながるよう支援させていただいています。	食事の献立は事業所の統一したメニューであるが、行事食や特別食も月1回は企画されて楽しんでいる。また管理栄養士が定期的に訪問して栄養管理の相談、助言もしてくれる。テーブル拭き、茶碗拭き、盛り付け、野菜を切るなど、個々の出来る能力を活かしながら職員と共に楽しく食事が出来る雰囲気を出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎回記録をしています。管理栄養士の定期的な訪問で低栄養リスクの方には補助食事で対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの言葉かけを行い、ご自身でできる方は実施していただいています。訪問歯科で定期健診の対象の方は歯科医師より助言をもらい、口腔ケアを実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツやパットを使用している方には、個別に時間を合わせてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄と清潔保持が出来るよう支援しています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄を基本としている。一人ひとりの排泄の習慣や身体状態を理解し、さりげない声かけや羞恥心にも配慮して適切な支援が出来るように全職員が統一した排泄ケアを修得して、自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ誘導が必要な方にはトイレに座っていただくようにしています。便秘の方には水分や運動を意識した言葉かけをしています。排便状況を確認して、医療機関、調剤薬局と相談をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や希望を尊重しながら入浴をしていただいています。定期的な入浴で気分転換や清潔保持が出来るよう配慮しています。	週2回午前中の中の入浴を基本としている。希望があれば時間帯や同性介助など柔軟に対応している。浴室内は明るく補助具も整備され、個浴と機械浴対応の浴槽があり、安全に対応出来る環境である。個別対応の入浴なので、寛いだ気分でゆっくりと話しをしながらの入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡、就寝時間、起床時間については、個々の生活リズムに合わせて言葉かけをしています。必要な方には安心して睡眠が出来るようにお話をお聴きしながら対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬ミスをなくすため一包化した薬で名前を読み上げてダブルチェックをしています。処方内容が変更になった場合は申し送りを徹底し、症状の変化に注意し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や能力を参考にして、調理、掃除、軽作業、園芸作業等に参加していただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣をドライブしながらお花見に出かけました。外出は自粛するようになっていました。	コロナ禍で外出を自粛しているが、状況を見ながら季節毎のドライブや花見、施設周辺を散歩したり、日向ぼっこしたりと外の空気に触れる機会を設けている。家族からの協力でも外出や外食を楽しむ事は出来ていた。施設内で季節の作品を作ったり飾りつけしたりと楽しい時間も過ごしている。外出時や施設内での日々の生活の様子を写真に撮り、元気で楽しく過ごしている様子と手紙を書き、家族に配布している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金銭を所持している人もいます。必要なものは買い物の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があればご家族とお話ができるように支援しています。ご家族あての手紙に一筆書き添えていただくこともあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物干し場にベンチを設置し日光浴が出来るようにしています。ホールや廊下には写真等を飾って楽しんでいる様子を眺めることができます。自然光を取り入れ季節毎のお花を飾っています。	共有空間は明るく、白木造りで清潔感のある生活の場となっている。フロアの壁面や天井には利用者と共に創った季節の作品や写真を飾り、温かみを感じられる。所々にソファや椅子を置き、利用者が好きな場所で寛げるようになっている。キッチンで調理する音や匂いを感じたりと生活感が窺える。ホールには常に職員が居て、お話ししたり見守ったりと、目配り気配りがあり安心できる生活の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にも廊下に長椅子を置いて、いつでも一人や気の合う方同士で座れるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際には、馴染みの家具や品物の他、ご家族等の写真を持ち込んでいただき、安心してもらえうような雰囲気作りに配慮しています。	馴染みの物の持ち込みは自由であり、利用者、家族の意向を大切に安心できる環境を整えている。一人ひとりの部屋に名前を貼り自分の部屋である事を意識できるようになっている。部屋のドアの色と、トイレのドアの色を変えトイレの場所も分かりやすくなっている。掃除やシーツ交換は職員と一緒にしない清潔感も保たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体に手すりが設置されており、安全に移動出来るように配慮しています。また、各居室への名前の表示やトイレの表示の他、トイレと居室の区別がつかず混乱される方には同行し配慮しています。		